

# 杉の子

奥多摩町立氷川小学校  
学校便り 9月号  
令和4年 9月 1日発行



## 得手に帆を揚げ

校長 松井 良

6年生は、7月25日(月)から27日(水)まで2泊3日の行程で、日光移動教室に出掛けました。日光市街から奥日光へは「いろは坂」を上って行きます。上り下り合わせて48のカーブがあることから、「いろは48音」になぞらえて、「いろは坂」と名付けられたそうです。高低差400mもあるこの坂を、毎回車酔いさせずに上り切るために、担任時代には事前学習として児童に「いろは歌」を覚えさせていました。さらに、この「いろは歌」のそれぞれの文字を頭文字としたことわざを集めた、「いろはかるた」も覚えさせ、カーブの度に、「い」「犬も歩けば棒に当たる」、「ろ」「論より証拠」、「は」「花より団子」と続けて唱えさせていくことで、バスで揺られていることを忘れさせるのです。

京都、尾張など地方によって違うこの「いろはかるた」の江戸版には、「え」で始まることわざは「得手に帆を揚げ」とあります。「機会に恵まれ、自分の得意なことを大いに揮ふこと」という意味です。

FUNKY MONKEY BABY'Sの楽曲「悲しみなんて笑い飛ばせ」の歌詞の一節に、「強靱な向かい風は、背中を受け止めて、追い風にすればいいさ…」とあります。

カウンセリングの手法に、短所を長所に言い換える「リフレーミング」というものがあります。「頑固」と聞くと短所として捉えられがちですが、「意志が強い、諦めない」と見方を変えることで、同じ性質のもの長所としての発揮のされ方が見えてきます。「長所と短所は表裏一体」と言われます。短所として空回りさせるのではなく、「強み、得意なこと」として発揮させていくことが大切なのでしょう。

明治維新で重要な働きをする多くの人材を輩出した松下村塾を開いた吉田松陰は、「どんな人でも得意とするものと不得意とするものがあるが、優れた英雄といえども不得意のものがあり、愚か者と考えられる人にも得意のものがある。その得意とするところのものをよく見極めて、伸ばしてやるのが大事である。」と言っています。密航の疑いから投獄された際にも、牢内において生きる希望ももてずにいた囚人たちに論語や孟子の講義を行い、囚人たちそれぞれが得意とすることを互いに教え合わせていきました。己の得意とすることを自覚させ、その発揮のさせ方を導くことで、牢内に活気が生まれ全員が生き生きとして、規律正しい秩序が醸成され、獄吏を驚かせたとされています。

ホンダの創業者、本田宗一郎氏の著書「得手に帆を揚げる」の中には、「自分の得意なことを見付け出したら、どんなに苦しくても全力で挑め。自分の誇りに掛けて、やり続けろ。苦しみの先に喜びは必ずやってくる。」とあります。

日光移動教室では、戦場ヶ原ハイキングで疲れた友達を励まし背中を押す体力自慢の児童、レクリエーション大会を盛り上げようとする元気が売りの児童、部屋の整頓をすすんで行うきれい好きな児童など、自分の得意なことを生かして集団に貢献する姿が随所に見られました。

「悲しみなんて笑い飛ばせ」の歌詞は、「不可能なんてないよ、可能だらけさ、絶望なんてないよ、希望だらけさ」で終わっています。身近な大人との関わりによって、「短所」として受ける向かい風を、「強みや得意なこと」への追い風に変えて、可能だらけ、希望だらけにしてあげたいものです。

